

5月田植えと1株3~4本植えで良質茎を!!

【田植え・初期管理のポイント】

※コシヒカリの田植えは5月に入ってから！風の強い日は植傷みするので田植えは控えよう

- ① 植え付け株数・・・60株/坪（高地力田・倒伏田では50株/坪）
- ② 植え付け本数・・・3~4本/1株（1~2本植えでも補植はしない）
- ③ 植え付け深さ・・・2cm程度（深植えは分けつの発生が遅れます！）
- ④ 田植後はすみやかに入水!! 活着までは5~10cm程度の深水管理で植傷みを防ぐ
- ⑤ 活着したら2~3cmの浅水管理（低温・強風時は深水）で、地温を上げ、稲を元気にしよう。
- ⑥ 水を入れるのは早朝か夕方。昼間は水温を上昇させましょう。
- ⑦ 5月中下旬の温暖な日に水を落とし、軽い田干し（ガス抜き）を2~3回繰り返しましょう。

【除草剤の使用方法】

一発処理

除草剤散布後7日間は落水・かけ流しはしない

田植後日数	0	5	10	15	20	25	
代 か き	田 植 え	ベンケイ1キロ粒剤(1kg/10a)				雑草が多い圃場の一発処理 ノビエ3.0葉期まで	
		ガンガン1キロ粒剤(1kg/10a)				ノビエ3.0葉期まで	
		シリウスエグザ1キロ粒剤(1kg/10a)				ノビエ2.5葉期まで	

省力除草方法

田植後日数	0	3	5	10	12	15	20	25	
代 か き	田 植 え	バッチリジャンボ(400g/10a)				ノビエ2.5葉期まで			
		シリウスエグザ顆粒(80g/10a)				ノビエ2.5葉期まで			

- 【バッチリジャンボ】・深水で散布する。
・藻や表層はく離の発生している圃場では使用しない
- 【シリウスエグザ顆粒】・水口より散布する流し込みタイプ
・散布時は水深を3cmほど確保し散布し、水深が2cm以上アップしたら、散布完了。

一般的な体系処理

田植後日数	0	5	10	15	20	25
代 か き	田 植 え	マーシット1キロ粒剤 (1kg/10a) または クール1キロ粒剤 (1kg/10a)	バッチリLX1キロ粒剤(1kg/10a)		ノビエ2.5葉期まで	
			シリウスエグザ1キロ粒剤(1kg/10a)			
			エンペラー1キロ粒剤(1kg/10a)		ノビエ3葉期まで	

田植え直後~5日に散布
ノビエ発生始期まで

【散布方法】

- ① 田植え前の初期剤散布はしないで下さい。
- ② 藻類・表層はく離の発生前に散布する。
- ③ ジャンボ剤・豆つぶ剤は手散布で行う。
(幅30m以下のほ場では畦畔からのみの散布可能)
- ④ ジャンボ剤・豆つぶ剤は水深5cm・藻類の発生前に散布する。
- ⑤ マットSM1キロ粒剤を使用する場合は、夕方に散布を行う。
- ⑥ 前年と異なる品種を作付けするほ場では、漏生対策として初期剤(マーシット1キロ粒剤)を散布する。

【田植同時散布の注意点】

- ① 代かきは丁寧に。田面を均平に。
- ② ひたひたの湛水条件で田植えする。
- ③ 補植は行わない。
- ④ 強風の際は田植えを控える。
(薬害の恐れあり)
- ⑤ 薬剤散布後は効果を高めるため、すみやかに入水する。

除草剤は水が命！ 散布後1週間は水を切らさずに！

くわしいことは、営農指導員にお尋ねください。

倉庫でのネズミ防除のポイントは清掃の徹底！（駆除剤は絶対に使用しない）

生産履歴とGAPを的確に記帳しましょう！

浅水で代かきし、田植え前に濁り水を排水しないようにしましょう！

レブラス粒剤

ヒエクリン粒剤

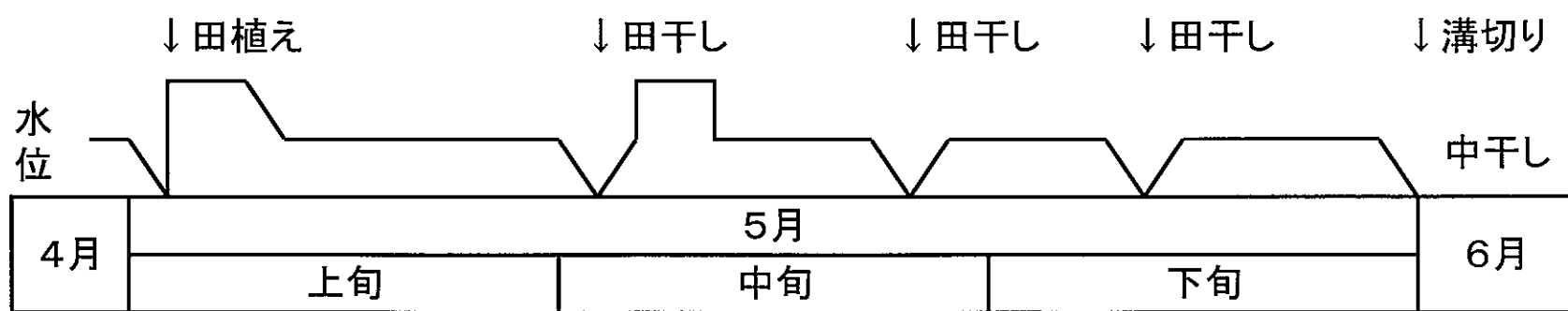
クリンチャー粒剤

適切な初期管理は良質米への第一歩！！

【田植え後の水管理】

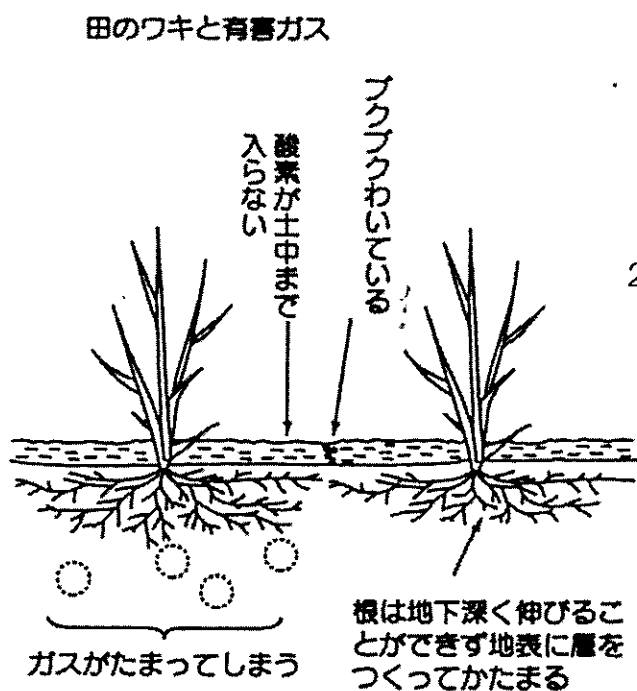
田植え後の水管理は、稲のその後の生育に大きく影響します。
適切な管理により、初期生育の確保・健全な稲体の育成に努めましょう！

- 田植え後3～5日 深水管理(5～10cm程度)
- 除草剤散布時は十分に水を入れる
- 日中は浅水管理(2～3cm)で、地温の上昇を図る

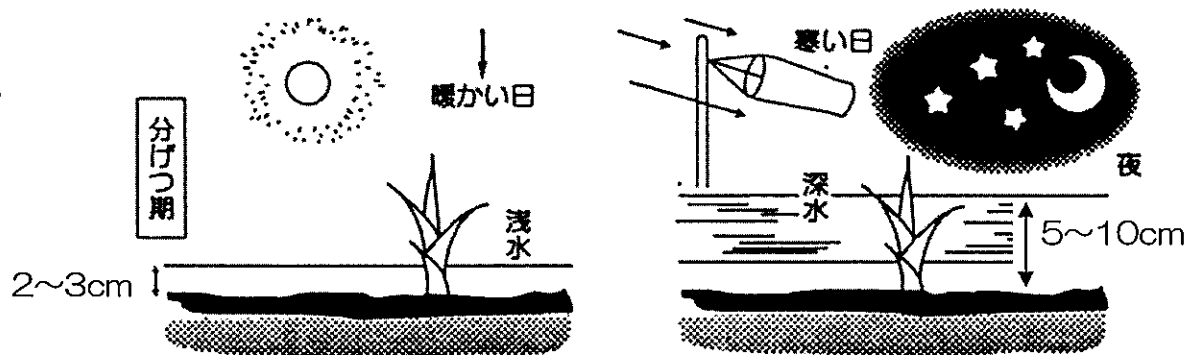


- ① 田植え後、低温・強風時は、苗が水没しない程度の深水とし、苗を保護する。
- ② 活着後は日中2～3cmの浅水管理を行い、朝に短時間の入水を励行し、田の水温・地温が上がるように努める。
- ③ 中干しまでに田干しを2～3回行い、ガス抜きをし、根の張りを良くする。
※ 田植え後、低温が続く場合でも、出来るだけ暖かい日を選び、水の入替えを行う。
- ④ 6月初めには、「中干し」や「間断通水」をしやすくするため、溝切りを必ず実施する。

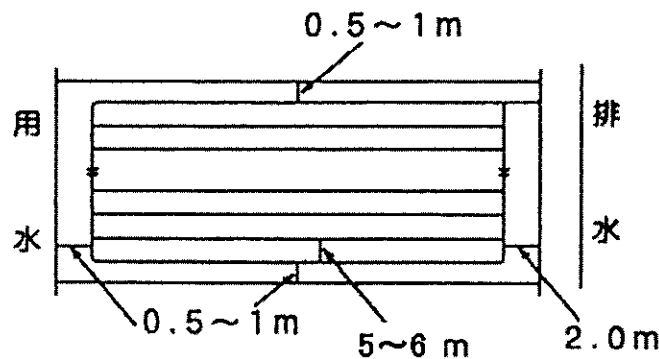
ガスの発生



天候に応じた水管理の実施



溝切りの例 平坦地の場合



LINE登録はこちらから！
営農情報をお届けします！

※ガス抜きについて

- 有機物を施用した圃場や湿田では5月中旬以降、地温の上昇にともない有機物の分解が進み、ガスが発生しやすくなり、根腐れの原因となります。ガスが発生している圃場では、晴天時に田干しを実施し、ガス抜きをする必要があります。
- 特に、除草剤(特に中期剤)の散布前には必ずガス抜きを実施してください。

中干しは、田植え一ヶ月後を目安に開始しましょう！

くわしいことは、営農指導員にお尋ねください。

補植苗の放置は葉いもちの発生源となりますので、早急に処分しましょう！

J A 能美営農推進課【公式】アカウント